

# 環境シンポジウム 2025

## 趣旨

私たち一般社団法人プレハブ建築協会 | 住宅部会は、2021年10月、2050年カーボンニュートラルの実現を含む、新たな環境ビジョンを策定、住宅におけるZEHやZEH-Mの推進、工場における再エネの導入など、商品・モノづくりの両面から環境課題への取り組みを加速しています。

ここにきて、建築物の脱炭素化を実現するためには使用時だけでなくライフサイクル全体においていかに環境負荷を低減できるかということが大きな関心事となってきており、ライフサイクルの長い住宅においても重要なテーマとなっています。

本シンポジウムでは、特別講演を通じて、ライフサイクル視点での住宅・建物のあるべき姿と最新動向を学ぶとともに、会員各社の先進的な取り組みを共有し、住まいの新たな価値の創造について考えたいと思います。

**日時** 2026年2月3日 火曜日 13:00~16:00 (受付 12:30)  
**会場** TKP ガーデンシティ御茶ノ水 (東京都千代田区神田駿河台 3-11-1) ※新御茶ノ水駅直結  
[https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/gc-ochanomizu/access/?ctid=ad\\_gsa\\_kk\\_0201](https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/gc-ochanomizu/access/?ctid=ad_gsa_kk_0201)  
**開催形式** 会場セミナー (約 120 名)

## 特別講演

### 「ライフサイクル思考の住宅のつくり方」



#### 清家 剛 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

1964年徳島県生まれ。工学博士。一級建築士。東京大学工学部建築学科卒業、同大学院修士課程修了。東京大学工学部建築学科助手、東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授を経て、2019年より現職。専門は建築構法、研究テーマは建築生産に関わる環境負荷評価に関する研究。これまで、日本建築学会及び国土交通省などにおいて、非構造部材の耐震や省エネ関連の委員会に数多く参加。著書に『サステイナブルハウジング』（監修・東洋経済新報社）、『ファサードをつくる』（共著・彰国社）など。

#### 【講演要旨】

脱炭素社会実現に向けた動きの中で、今後の住宅のつくり方は、部品の製造や住宅の設計・建設といった現状関わっている範囲を考えるだけでなく、その手前の調達する材料の状況や建てた後の維持管理・運用についても考慮するライフサイクル思考が、これまで以上に求められるようになる。今後あらたにどのような取り組みが必要か、ライフサイクルアセスメントの基本と相場観、あるいはJ-CAT等の日本の現状を解説して、皆さんと一緒に考えたい。

## スケジュール

13:00~13:05	開会あいさつ	住宅部会 部会長代行 積水化学工業 (株) 藤本 勝
13:05~14:20	特別講演「ライフサイクル思考の住宅のつくり方」	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授 清家 剛 氏
14:20~14:40	環境分科会からの報告 (住生活向上推進プラン (環境指標) 2024 年度実績ほか)	
14:40~14:55	(休憩)	
14:55~15:15	事例①: 積水化学グループにおけるCN・CE社会の実現をめざしたものづくりへの移行	積水化学工業(株) ESG 経営推進部 環境経営グループ長 三浦 仁美 氏
15:15~15:35	事例②: 熊谷市のスマートタウン事業における断熱に関する取組紹介	(株) ミサワホーム総合研究所 環境エネルギーセンター カーボンニュートラル技術研究室 室長 梅村 啓志郎氏 旭化成ホームズ(株) オーナーサービス推進本部 アフターサービス推進グループ
15:35~15:55	事例③: LONGLIFEのための災害対応と情報の活用	藤巻 慎司 氏 技術本部 構造技術グループ長 松原 宏志 氏
15:55~16:00	閉会あいさつ	プレハブ建築協会 専務理事 白井 浩一

主催: 一般社団法人 プレハブ建築協会 住宅部会 環境分科会